

# 当院における介護保険利用の現状と 連携への取り組み

大野呂和栄, 松岡真由美, 小井 正美, 小野みね子  
秦 佳子, 岡 良成, 高津 成子, 宮崎 雅史  
腎不全センター幸町記念病院

キーワード：高齢化，介護，連携

## I はじめに

透析治療において介護の問題は透析患者のQOLを大きく左右する重要事項であるが、透析患者の高齢化が進む一方配偶者の高齢化・核家族・一人暮らしの増加等で介護する環境は十分整っておらず、介護保険を利用する人は拡大している。今回我々は連絡ノートとケアカンファレンスが、当院スタッフと介護担当者の連携支援に役立っているかを連絡ノートの主たる記載者9名とケアカンファレンスに参加した介護支援事業所15ヶ所へのアンケートを行い検討した。

## II 対象及び方法

- 1) H15年～H20年6月迄の当院における要介護者数の実態
- 2) 介護保険利用者と介護保険の利用状況の実態
- 3) 連絡ノートの主たる記載者9名に対するノートの活用状況をアンケート調査（アンケート回収率100%）
- 4) ケアカンファレンスに参加した介護支援事業所15ヶ所に対して連携支援に役立っているかをアンケート調査（アンケート回収率93%）

## III 結 果

1) H15年からの当院の透析患者総数と要介護者数は年々増加し要介護者は現在では3倍以上になっている。（表I）介護保険の認定を受けている人は第1号・第2号被保険者を合わせて全体の34%を占めた。第2号被保険者の特定疾患は糖尿病性腎症40%、脳血管障害35%、脊柱管狭窄症20%、AS05%であった。（表II）介護度別では機能低下が顕著にみられる要介護3以上は27名で利用者の約4割である。

2) 介護保険の利用状況はどの介護度でも通院介護の利用が最も多かった。（表III）

3) 連絡ノートへの対応は、質問に対する返答は知りたいことが書かれている、適切である、家族にもわかりやすいという順の回答であったが、反面専門的過ぎる、返答がなく再度尋ねることがあると答えた人もいた。ノートで知りたい内容は、

透析中の異常時の状態や自宅での処置・対応のしかた、不穏やADL低下に対する助言、他の患者に迷惑をかけていないか等で介護者全員がノートを有効に活用していた。（表IV）

表 I 当院における要介護者数の変遷

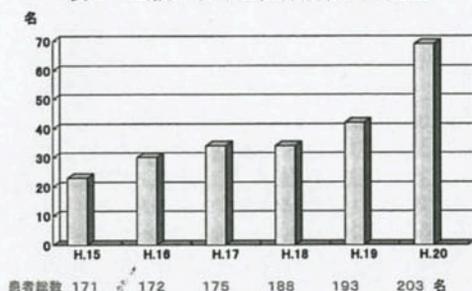


表 II 介護保険利用者の実態

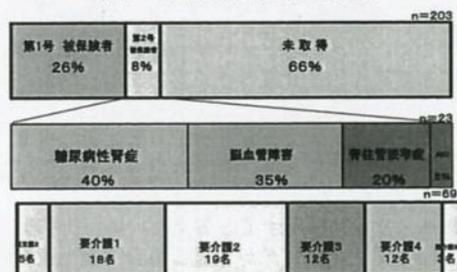
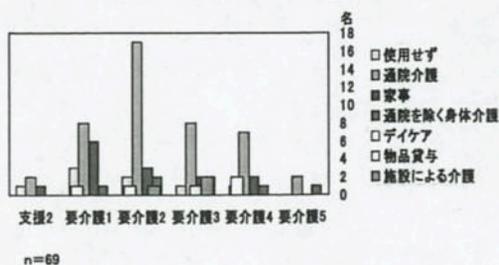


表 III 介護保険の利用状況



表Ⅳ 連絡ノートの記録内容と記載者  
(重複回答あり)

	記載内容	連絡ノートの記載者
介護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の体調について(8名)</li> <li>臨時薬の依頼(6名)</li> <li>スタッフへの質問(4名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配偶者(2名)</li> <li>同居の肉親(3名)</li> <li>介護専門スタッフ(4名)</li> </ul>
当院	<ul style="list-style-type: none"> <li>透析中の状態</li> <li>検査結果の説明</li> <li>透析条件の変更</li> <li>参考献立・栄養指導</li> <li>薬の説明</li> <li>質問・依頼への返事</li> <li>簡単な病状説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師</li> <li>看護師</li> <li>臨床工学技士</li> <li>栄養士</li> <li>薬剤師</li> <li>検査技師</li> <li>医療秘書</li> </ul>

表Ⅴ ケアカンファレンス開催までの流れ

・主な開催日	・退院時	・介護度変更時
	・介護内容追加時	
	・患者、家族の要望時	
・場 所	・当院のカンファレンスルーム	
・連絡形態	ケアマネージャー ↔ 医療秘書 ↔ 患者・家族 ↙ ↘ 医師 看護師	
・参加者	・患者 ・家族 ・ケアマネージャー ・医師 ・看護師 ・医療秘書	

4) ケアカンファレンス開催の呼びかけはケアマネージャーから医療秘書に連絡があり、相互の調整を行ったうえ日時を決定している(表Ⅴ)。

ケアカンファレンスで連携支援のコミュニケーションが図れたことにより意識の統一が出来る、支援していくメンバーがわかった、新たな問題の気づきや具体的な介護の修正が出来る、メンバーの知恵が借りられる、相談しやすくなった、身体的状況の確認が出来る、治療や日常生活の留意点が変わるということが、効果的理由であった。又少数ではあったが、透析があることはケアプランの計画・立案に影響すると答えている。その理由は、送迎のプランニングが必要な場合支援単位数が高くなり、介護度によっては経済的負担も大きくなる、他のサービスとの組み合わせに融通がききにくい、透析のための通院が最大の生活目標になっている等であった。

ケアカンファレンスにおいて欠かせない透析患者の通院支援を介護者側から見ると、殆どの人が身体的負担を感じ精神的には送迎中、急変しないか不安に思っていた。その要因は、透析後の体調の変化や身体機能低下に対する配慮、認知症等の問題行動への対応と答えている。

## Ⅳ 考 察

要介護者は増加の一途であり通院透析を続けるために、介護の連携支援として連絡ノートの活用

とケアカンファレンスへの参加は患者に対しても不安の軽減に繋がっていた。連絡ノートは介護者・病院スタッフ共に、透析中の状態や体調に関することを記載して欲しいと思い、ケアカンファレンスでは多職種のメンバーが一同に会するため患者の全体像が把握しやすく、課題の調整も行いやすい。連絡ノートやケアカンファレンスは介護する協力体制がわかるため、家族の不安や孤立感の軽減にも役立っていた。

## Ⅴ ま と め

要介護者の通院を支援する上で連絡ノートとケアカンファレンスは有効に活用できていた。連絡ノートで体調などの情報交換をする一方で、介護者・家族・医療スタッフが一同に会すカンファレンスは期待度と満足度が大きいといえる。医療スタッフは介護支援スタッフの一員という意識を併せ持つことが重要と考える。

## Ⅵ 参 考 文 献

金川克子・野口美和子：疾病・障害を持つ高齢者の看護 中央法規

六角僚子：認知症の考え方と技術 医学書院